

令和元年度 校内研究反省のまとめに対する見解

1. 研究の成果と課題

(1) 先行研究を生かす（1年間見通しを持って実践していくために）

研究発表を行うに辺り、9月までに全員で1本、研究授業を行ったことは、大変負担だったが、その後の見通しを持って子どもを育てることにつながった。成果としては、

- 前半の一本を学年・ブロックでじっくり考え、検討を繰り返したこと
- 先行研究を生かし、自分のクラスの実態に合わせて、単元構想を変化させながら、1本目の授業研や、日々の実践にあたったこと

の2点が考えられる。学年、ブロックで検討を充実させてきていることは毎年同じ、貴重な成果の一つであるが、今年は、先行研究を十分に生かしたことが大きい。今までにない、新しい単元の開発をしなければ、研究成果がないと考えられがちであったが、先行研究と同じ教科・単元であっても、子どもの思考に合わせると同じ流れになることはないということから、先行の実践を土台として、目の前にいる子どもたちの思考とのずれを修正していったり、導入からアレンジしてみたり、いろいろな活用の仕方が可能である。今後も、気軽に先行研究を普段の授業に活用する姿勢を推進していきたい。

(2) 学級経営についてじっくり考える = 校内研究を深める

学級経営検討会については、お互いの研鑽につながるよい機会となっているということは、今年も反省を見てよく分かる。しかしながら、よく見てみると、その時のグループの話の進め方などによって、多少行われた内容が異なるのがわかる。

- 「情報交換」「共通理解」「自分の実践の見つめ直し」「自分の経営ビジョンの明確化」につながる点で成果が大きい。
- △ ざくばらんに話せる機会となっている一方で、校内研究とのつながりを意識できず、個人の話に終始する検討会になってしまっている。

個人の名前を出して具体的に語ることは必要である。困り感をもとに話を進めていってもよい。ただ、それで終わってしまうと、研究テーマやグランドデザインで目指す子ども像に迫れない。経営案の中にある、「具体的な目標に向かってこう育てたいが、手立てとしてどんなものがあるか？」を解決するための、子どもの話であるべきだと考える。ぜひ、経営案を使って、研究でめざす子どもの姿に近づけるための話し合いの場としてほしい。

経営案の形式については、項目が同じであれば、基本的に自由に書いてかまわない。少し簡素化して書いても良いと思う。見本で提示している物は、自分の経営案をより構造化して捉える良さから、図などを入れた形式にしている。大事にしたいのは、校内研究や学校のグランドデザインに示された目指す子ども像にせまるにあたり、ある程度時間をかけて目の前の子どもたちの実態を分析し、1年間でどんな手立てをとって育てるのかをじっくり考えて、子どもと向き合っていくことである。文言が簡略化しても、文章だけの経営案になっても、いつも意識して、実践を積み重ねていき、研究につなげてほしいと思う。

(3) 見とりについて

反省の中には、「できた」の回答が多くあったが、「もう少し」の回答も同等に多くあった。また、「できた」の中にも、「もう少し頑張りたい」などの声も上がっている。

- 単元構想を作る時に、「子どもがなんと言うか」、「子どもはどう考えるか」「子どもはどうするか。」を、話しながら、ブロックで検討できている。それをもとにして作った、座席表や、ワークシートをもとに見とりができている
- △ 授業場面で、集団としての思いをひろうために、「なんと言ったか。」「どう考えているか。」「どんな気持ちなのか。」を見とり、「だれをすくい」「だれを生かし」「だれをひろう」のかを考えることができにくい。

単元構想をブロックで作る時に、その場面の子どもになって「これは、子どもは言わないよね。」「こうやって、〇〇さんだったら言うよ。」などと考えながら話すことは、見とる視点が持てるため、とても良いことなので、今後も推進していく。授業場面では、個々を見とるためにも、目に見えて表出した発言の中の言葉や書いた物だけでなく、「行動」「表情」「つぶやき」に注目して「ひびき合う姿」が見とれるよう、研究協議でその部分も含めた話（すでにしているグループもあったが）ができるよう推進していく。そこで話題に上がったことをもとに、自分のスキルを高めていけるようにしたい。

また、以前、いちご研修で行った「見とりの視点をもつ」という研修も、とても有意義であった。その研修を年度のどこかに位置づけたい。見とる力をつけるためには、見とる視点をもってみようとする事が大切であるので、より広い視点を持てる研修にしていきたい。

個々の育ちや変容を見とることも大事にしていくが、抽出児童をもうけての見取りはせず、集団としての思いを拾うための個々の気持ちによりそう視点で、現状のやり方を継続していく。

(4) ブロック別のテーマについて

良いという意見が多くあったが、年度当初のブロックの実態に応じて、変化させて良いこともここで確認しておきたい。また、ブロックで区切りはあるものの、子どもによってはめざすところが、異ブロックのテーマに近い感じの発達段階の子もいる。その子の発達にあうよう、視点を柔軟に持つようにしたい。

また、支援級については、その時の子どもたちの集団の状態に応じて、研究テーマをもとに柔軟にブロックテーマを変容させた学級別提案の形でよい。

2. 来年度の方角性について

多くの先生方の反省から、来年度も三の丸の研究を継続していく方向でいく。今年度は公開研究会のため、重点項目は設けていなかったが、来年度は一昨年度までやってきたように、反省から必要とされるところを重点項目として設けていく。来年度の重点項目は以下のようにしたい。

- ・ 「こどもをみとる力をつける」→ (3) みとりについて参照
- ・ 「ひびき合うためのノート指導」

推進委員会でも話題になり、小林先生の話の中にも登場しているノート指導。低学年はワークシートになると思うが、「ひびき合うために必要なノート」「ひびき合ったことが見とりやすいノート」、いろいろな形式や思考ツールを用いたものが考えられる。すでに公開授業の時にも、様々な工夫をしてノート指導やワークシートの作成に取り組んでいたと思うが、共有できていない。そこで、2年計画で、ノート指導の工夫について取り組んでいく。1年目は、工夫して実践してみたノートから「こんな形式があるんだ。」「こんな図を使って描かせることもできるんだ。」など、いろいろな物を持ち寄り、個々の引き出しを増やし

ていきたい。2 年目は、そうして持ち寄って得た物を生かし、自分の目の前の子どもにあわせ、よりよい物を作っていく。さらに、単元を通して、ノートやワークシートから子どもの変容や成長を見とることとしていきたい。小林先生にも、その点で、来校されたときにお話をいただくことも考えている。

3. 今後の予定

3 月 19 日（金）HP 用指導案および単元構想を PDF ファイルにして保存。

＜やり方＞ ① フォルダの中の自分のファイルを開き、指導案の組と指導者名を削除する。

F¥2019 年度¥00_校内共有¥5_教務¥2_指導¥6_教育研究¥02_校内共同研究
¥R1 校内共同研究¥2019.12.6 最新版・単元構想・本時案¥処理済み

② 「名前をつけて保存」→ 「年組・教科・単元名」の名前にし、
PDF 形式で保存
(例)「33 国語「わにのおじいさんのたから物」

③ 保存場所は以下の通り

F¥2019 年度¥00_校内共有¥5_教務¥2_指導¥6_教育研究¥02_校内共同研究
¥R1 校内共同研究¥2019.3.19 ホームページ用単元構想・指導案

3 月中 研究紀要の HP アップ

3 月 27 日 「成果と課題」のデータを校内研の「反省」フォルダに入れる

今年も 1 年間ありがとうございました。
来年度も、子どものための研究になるよう、
よろしくお願いします。

